

群馬大学広報誌 - 創基150周年記念号 -

[グッデイ]

GU'DAY

IS NATIONAL UNIVERSITY CORPORATION GUNMA UNIVERSITY'S MAGAZINE THAT PROVIDES RECENT NEWS

特集

★学長×在学生トークセッション

「151年目の群馬大学」

石崎学長と在学生が目指す群馬大学の未来、

そしてSociety5.0社会を生き抜くために必要なスキルとは？

★キャンパス紹介 重粒子線医学研究センター

医学系研究科腫瘍放射線学講座(重粒子線医学研究センター長)大野達也教授

★研究紹介 アダプティブ重粒子線照射技術の開発

重粒子線医学推進機構先端粒子線医科学共同研究講座(日立製作所)岡野奈緒子准教授

★輝く群大生

ドラマ「silent」脚本家・生方美久さん

本学卒業生である話題の脚本家の素顔に学生広報大使が迫りました！

★手話サポーター養成プロジェクト室

群馬大学で本格的に手話を学ぼう！

GU'DAY 2023

創基150周年

150th Anniversary

Vol.13



駆けろ未来へ

150年の歴史と共に

— 群馬大学は2023年に、創基150周年を迎えます —





創基150周年 記念号

Contents

- p.02** 群馬大学創基150周年に寄せて学
長／共同教育学部長ご挨拶
- p.03** キャッチコピーとロゴマーク決まる
- p.04** 学長×在学生トークセッション
「151年目の群馬大学」
- p.10** キャンパス紹介「重粒子線医学研究センター」
- p.14** 研究紹介
「先端粒子線医科学共同研究講座（日立製作所）」
- p.18** 輝く群大生
話題のドラマ「silent」を手がけた
脚本家の生方美久さんにインタビュー！！
- p.22** 群馬大学で本格的に手話を学ぼう！
手話サポーター養成プロジェクト室
- p.26** 群馬大学最新ニュース
- p.28** 荒牧祭とホームカミングデー同日開催
- p.29** 群馬大学基金

【写真解説】：春を迎え、暖かな陽の光に誘い出されてシドキヤマアザミの花のもとを訪れたミツバチ。シドキヤマアザミは主に東北地方、北関東及び長野県に分布し、頭を垂れるように花を咲かせるのが特徴のアザミです。群馬県では2012年に絶滅危惧Ⅱ類に指定された希少種で、写真は赤城山（群馬県中部）で撮影されたものです。

（撮影：社会情報学部4年 綿屋奎杜 荒牧写真部所属）

ごあいさつ

群馬大学は令和5年(2023年)をもちまして、本学の起源とする「小学校教員伝習所」設立から150年を迎えます。

「小学校教員伝習所」が開設された明治6年(1873年)は明治維新のただ中で、日本が近代国家へと生まれ変わろうとしている時でした。教育制度に関して言えば、明治4年(1871年)に文部省が設置され、明治5年(1872年)に初めての全国規模の近代教育法令である「学制」が公布されました。「学制」は身分の区別無く全ての国民が教育を受けられる学校を全国に設置するもので、群馬の地でも教員養成が急務となりました。このような経緯で「小学校教員伝習所」が設立されたのです。その後、大正4年(1915年)に「桐生高等染織学校」、昭和18年(1943年)に「前橋医学専門学校」が設立され、これら3校を継承する学校を包括して、昭和24年(1949年)に群馬大学が誕生しました。こうして本学は、群馬県教育、産業、医療を支える人材を養成する機関として、今日までに約8万人もの学生を世の中に送り出しています。

産業革命、グローバル化、エネルギー革命、Society 5.0、SDGsなど、世の中は常に先へ進んでいます。本学も時代の変化に対応し、令和3年(2021年)に情報学部を新設し、理工学部を改組しました。その他、教員、医師、看護師、技術者などの専門家を養成する大学として、共同研究やリカレント教育などによる産業振興の要として、重粒子線治療を始めとする先進医療を提供する地域の中核病院として、地域と共に歩んできました。

世界に目を向けると、気候変動、パンデミック、軍事侵攻など不安に溢れています。グローバル化した社会では、日本から遠く離れた地域の問題であっても、地球上で共に生きる人類として共に協力しなければ明るい未来はありません。群馬大学も昨年ウクライナから4名の学生と1名の研究者を受け入れ、落ち着いて勉学・研究にいそしめる環境を提供しています。近い将来、彼らが祖国ウクライナの復興・再建に大きく貢献してくれること、また新生ウクライナと日本の交流の架け橋となってくれることを期待しています。

群馬大学はこれからも地域の発展と持続可能な社会の実現を目指し、我々の持つ教育・研究機能を最大限発揮し「地域に根ざし、知的な創造を通じて、世界の最先端へとチャレンジし、21世紀を切り拓く大学へ」成長し続けます。



第13代群馬大学長
石崎 泰樹

群馬大学創基150周年のあゆみ

今般、群馬大学は、創基150周年を祝います。

各学部の設置の経緯はそれぞれですが、これがひとつの新制大学＝群馬大学としてまとめ、今日を迎えていることには、大きな意味があると思います。

近代日本の出発にあたり、新たな時代を切り拓くには国民に広く教育を普及すべし、そのためには優れた教師の育成が必要であるとして、いち早く教員養成機関が設けられました。近代国家としての日本を支える人材育成の体制が整ったのを基礎として、近世以来の地域の産業の強みを生かしつつ新時代の産業を確立するため、桐生に官立高等染織学校が設置され、さらに、近代国家への脱皮が一応成って、国民の健康福祉にますます目が行くようになった時勢下において前橋医学専門学校が生まれました。第二次世界大戦後、日本が再出発するにあたり、これらの流れがひとつになり、群馬大学として立ち上がったのです。その後も、時代の要請に応じて、今の医学部保健学科・情報学部・生体調節研究所等の機構・センターにつながっていく諸組織も続々生まれていきました。

時は移り、世界は近代国家日本が誕生した頃に匹敵する激動と変革の時代を迎えています。この機にあたり、各学部がさらに一体となり、さらにはあらたな学際的・融合的な知の拠点へと発展していくマイルストーンとして、150周年は位置づけられていくことでしょう。

共同教育学部長 藤森 健太郎

群馬大学創基150周年記念事業のシンボル キャッチコピーとロゴマーク決定!

群馬大学創基150周年記念事業(以下、周年事業)のシンボルとして教職員、学生、卒業生などから募集したキャッチコピー(応募総数:49作品)、ロゴマーク(応募総数:36作品)の中から、群馬大学ホームページ上での投票や実行委員会での選考を経て、最優秀作品(採用作品)を決定しました。

受賞者の決定を受け、荒牧キャンパスにおいて表彰式を挙行了しました。石崎泰樹学長から受賞者に感謝の言葉と賞状及び副賞が贈呈され、受賞者からは受賞の感想や作品に込めた思いなどについて受賞挨拶をいただきました。このキャッチコピーとロゴマークは、2023年度の本学のあらゆる広報物、記念グッズなどに使用され、周年事業を盛り上げるものとなります。



最優秀賞

共同教育学部1年
加藤 璃瑠 (かとう・りる)

●キャッチコピー

「駆ける未来へ
150年の歴史と共に」

※商標登録出願済(商願2023-004961)

150年の歴史を背負ってこれからの未来を創っていけるような学校になってほしいという思いを込めました。



最優秀賞

社会情報学部2019年度卒業
中島 明日香 (なかじま・あすか)

●ロゴマーク



※商標登録出願済(商願2023-004960)

万年筆の筆先を「教育・学問」、筆先から繋がっている線と山を「地域との繋がり」として地域に根差した大学であることをイメージしました。緑豊かなキャンパスを想起させる緑を基調とし、双葉の色で「4つの学部」と「学部・国籍の垣根を超えた多様性」を4色のグラデーションで表現しています。



左からキャッチコピー制作者の加藤さん、石崎学長、ロゴマーク制作者の中島さん



選考に当たった創基150周年記念事業実行委員らと

「151年目の群馬大学」

石崎学長と在学生が目指す群馬大学の未来、 そしてSociety5.0社会を生き抜くスキルとは？

群馬大学は2023年、起源である「小学校教員伝習所」の設立から150周年を迎えます。そんな「創基150周年」を記念した特別企画として、日頃なかなか直接交流する機会のない学長と在学生が、それぞれの目線から群馬大学の今と未来を語りあい、率直な思いや意見を交わしました。



第13代群馬大学長
石崎 泰樹
(いしざき・やすき)

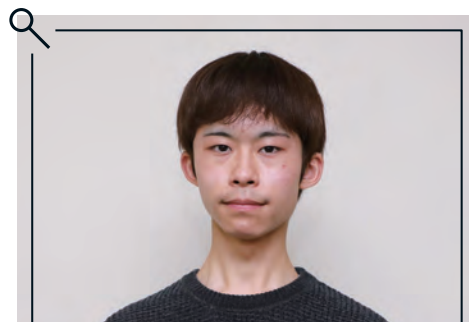
宮城県仙台市出身。東京大学医学部医学科卒業。東京大学大学院医学系研究科博士課程修了。2004年に群馬大学大学院医学系研究科教授昇任。2017年、群馬大学医学部長に就任。2021年4月より現職。



教育学部4年
永田 怜
(ながた・りょう)

【出身高校：群馬県立前橋高等学校】

理科教育を専門として学んでいる。2023(令和5年)年度から高校化学の教員として大学での学びを現場で実践し、経験を積んだ後、大学で理科教育や化学の教員になりたい。



情報学部2年
米持 晃輔
(よねもち・こうすけ)

【出身高校：埼玉県立秩父高等学校】

統計学やプログラミング、研究デザインなどを学んでいる。将来はデータサイエンスの切り口から医療・保健分野に貢献したいと考えている。

▶これからも、人と人との直接的なコミュニケーションを守りたい

永田:今回、私たち在校生から学長に伺いたいことを考えてきました。まずは新型コロナウイルスの流行によって急速に進んだ社会のオンライン化についてです。大学でも一般的になりつつあるオンライン授業のメリットやデメリットについて、お考えを聞かせください。

学長:学生さんにとってのメリットは、wi-fiがつながる静かな環境ならばどこでも講義を受けられるということではないでしょうか。オンデマンドならば自由な時間に、繰り返し受講できます。質問もチャットでの方がしやすいという点もありますね。ただ、緊張感や集中力という面では対面式の方が高まるのではないかと感じます。教員側のメリットとしては、講義室に出かけなくても研究室あるいは自宅から講義ができるということでしょうか。デメリットとしては、人と人との直接的なコミュニケーションができないところです。教員は学生の反応を見ながら話のテンポや深さを決めますが、それが難しくなります。私の友人がアメリカ・ボストンの大学の教授をしています。彼女の大学では授業は全てオンラインにしましたが、大学構内への入構は全面的に認めたそうです。アメリカでは直接的なコミュニケーションを非常に大切に考えており、大学とはそういう人間関係の形成の場であるとして、立ち入りを認めたようです。群馬大学では今後、対面授業を基本とし、一部のオンライン形式のメリットがある授業はオンラインを継続したいと思います。オンラインには海外や遠方の先生の講義も受けられるというメリットもありますね。

永田:在学生の印象についてお聞かせください。石崎先生の学生時代と比べて今の学生は先生の目にどのように映っていますか？

学長:長年教えていた医学部の学生を例に上げますと、昔の学生はよくグループで勉強していました。私自身も国家試験対策では4人のグループで放課後に喫茶店の片隅で一緒に勉強した思い出があります。最近の学生はグループで勉強するという光景があまり見られない気がします。実際のところはどのようなのでしょうか？

布施:私はよくグループで勉強しています。1年生の頃に石崎先生の有機化学の授業を受講していたのですが、証明の計算問題が難しくして(笑)。当時はまだコロナ禍ではなかったこともあり、図書館でみんなで勉強していました。

学長:最近では国家試験対策などもインターネットを駆使して勉強されていると聞いたことがあります。

布施:それも確かにあります。大学の授業に加えて、CBT (Computer Based Testing) の対策に、映像授業で知識を補うこともありました。しかし、臨床問題においては「この症例ではどういう疾患が考えられるか」といった知識の応用が必要です。ですから、友人と意見交換をすることで、自分が見落としていた疾患に気づかされることもあり、勉強になりました。

学長:「三人寄れば文殊の知恵」という諺がありますが、私自身も学生時代、友達と話している中で自分一人では思いつかないこともいろいろと学べた記憶がありますね。



医学部医学科4年
布施 敦也
(ふせ・あつや)

【出身高校:群馬県立高崎高等学校】

幼少期に弟が入院したことをきっかけに医師を志し、医学科に入学した。医学部硬式庭球部に所属。趣味はテニス、スノーボード、旅行など。



医学部保健学科4年
青木 琴実
(あおき・ことみ)

【出身高校:群馬県立前橋女子高等学校】

地域看護学、ゼミでは老年看護学を学んでいる。今春から県内の市町村に就職予定。地域の方々に寄り添った支援ができる保健師になることが目標。



大学院理工学府博士前期課程2年
上野 真琴
(うえの・まこと)

【出身高校:山形県立酒田東高等学校】

大学院理工学府物質・生命理工学教育プログラムで基礎研究に励んでいる。学部生の頃から学生広報大使やGFL生として多くのことに挑戦。社会人ドクターを視野に今春企業就職予定。

※学年は取材時のものです。

▶群馬県は暮らしやすい

米持: 本学の在学生の半数近くが群馬県の出身ですが、石崎先生からみた群馬の風土、文化、県民性などについて教えてください。

学長: 私が幼少期を暮らした山形県の米沢市は冬から春先までずっと「根雪」といって、地面が完全に雪で覆われてしまう地域でしたので、前橋市や桐生市周辺は一年中地面が見えて非常に暮らしやすいと感じます。また、晴天率が高く、日照時間も長いですね。東京で雨が降っていても前橋に来ると晴れているということがよくあります。ただ、冬はからっ風がすごく強い(笑)。また、水がおいしい。野菜もおいしいですね。お肉も、前橋市は豚肉が有名ですが、豚肉に限らず鶏肉も牛肉もみなおいしくて、私は食べることが好きなので、食べ物おいしいという点で群馬県を非常に気に入っています。県民性といえば、質実剛健という印象を受けます。また群馬県の女性は非常に頼りがいがあります。自分のアピールポイントを前面に出して活躍していただきたいと思います。お気に入りの場所としては温泉地ですね。伊香保温泉、草津温泉、それから水上の少し先の谷川温泉。これらの温泉には度々足を運んでいます。去年の秋には四万温泉へ。群馬県には全国的にも有名な温泉がたくさんあるので、これからもまだ訪れたことのない温泉地を訪れてみたいです。

青木: 石崎先生ご自身の学生時代で心に残っている思い出はありますか。

学長: 私は仙台市内の高校を卒業して東京の大学に進学しましたので、東京でないと味わえない、体験できないような場所によく行っていました。大学の近くにあった上野の鈴本演芸場にはよく通い、寄席で落語を聴きました。大学時代で一番大切だったと思うことは、友達をつくること。大学時代の友人とは今でも親しくつきあっていて、医学科の講義をお願いしたり色々と助けてもらっていました。みなさんには大学時代に一生つきあえる友人をつくっていただきたいです。

▶「好きなことを追究する」研究と、「社会に利益をもたらす」研究

上野: 石崎先生は研究者としての一面もお持ちです。研究者としての醍醐味や良き研究者像を教えてください。私はこの春に企業の研究職に就きますので、研究を続けるうえでの参考にさせていただきたいです。

学長: 私は「自分の好きなことができる」ということで研究職を選びました。いわゆる「キュリオシティ・ドリブン」、



好奇心で駆動される研究のスタイルですね。多くの場合は仮説を立てて実験しても、仮説に合うような実験結果は得られません。仮説をどう修正すれば実験結果に近づけるかをいつも考え、頭を悩ませていました。振り返ってみると色々悩んだこの時間が、研究の醍醐味であったと思います。一方で今、社会で重視されているのは「バック・キャスト」的な研究です。これは将来に向けてある実現したい目標を立て、その実現のためにはどのような研究、アプローチをすればよいかを考える研究スタイルです。目標が達成されれば社会実装につながりますから、より即効性があると思います。現代社会ではこの研究スタイルに重点が置かれていますが、私としては好きなことを突き詰める研究スタイルも大切に思っています。

上野: 私は今、基礎研究を行っており、社会にどう役立つかという以前に好奇心の赴くままに自分の好きなことをやっています。これから企業に進むとなると製品化などバック・キャスト的な考え方も求められますが、「好き」の探究と両方続けていきたいと思いました。

学長: ぜひその気持ちを捨てずに、貫いてください。

布施: 石崎先生がイギリスに留学された経験の中で、その後の人生や仕事に影響を与えたものはありますか？

学長: 留学先は、発表している論文の面白さで「このラボは面白い仕事をしているな」と思って、ロンドンの中心部にあるUniversity College London(UCL)のマーティン・



ユニヴァーシティカレッジロンドン(UCL)のマーティン・ラフ研の仲間と
(後列左端が石崎学長、隣がラフ教授)

ラフ教授のラボを選びました。カナダ人であるマーティンは、モントリオールにあるマギル大学 (McGill University) を卒業後、アメリカ・ボストンのマサチューセッツ総合病院で神経内科のレジデントをしていた時にベトナム戦争がはじまり、カナダ人でも徴兵されることになったため、「人を殺すのはいやだ」と考えた彼はイギリスに活動拠点を移しました。そこで基礎研究の面白さに取りつかれ、そのまま基礎医学の研究者になられた方です。マーティンは典型的な「キュリオシティ・ドリブン」の研究者でした。免疫学の領域、細胞生物学の領域、神経科学の領域で大きな業績を挙げ、特に神経科学の領域の研究成果は神経系の病気の治療法につながる業績を残したという点においても、私はマーティンに憧れていました。好奇心の向くままに研究を続け、結果的にそれが社会実装につながればそれこそ理想的と思います。



布施: 自分から意識的に動かないと考え方や生活なども狭いコミュニティの中で終わってしまうと思います。私は外の世界にも興味を持ちたいので、つながりが世界に広がるという点でも海外の生活に魅力を感じます。

学長: イギリスではカルチャーショックも受けましたが、そういうのは実際に住んでみないとなかなか分からないものです。ぜひ留学や海外生活を経験していただきたいです。

▶ Society5.0社会における必要なスキルとは？

永田: 続いてのテーマは、石崎先生から在学生の私たちに聞いてみたいことです。テーマは「Society5.0社会における必要なスキルとは」ですが、こちらのテーマを選ばれた理由は何でしょうか？

学長: Society5.0社会で生きていくためには、これまでとは異なるスキルが要求されます。これまでの社会で高く評価されてきた知識量や計算力は、Society5.0社会においては殆どがAI (Artificial Intelligence: 人工知能) や ICT (Information and Communication Technology:

情報通信技術) に取って代わられます。Society5.0社会で生きするために必要なスキルは、従前の教育だけを続けていては習得できない。群馬大学で今後どのような教育を施すかを、今まさに考える時に来ています。そこで在学生のみなさんの意見を伺い、今後の教育方針を決める際の参考にしたいと、テーマに選びました。

米持: 必要なスキル、私は、「情報を適切に分かりやすく伝える力」だと思います。Society5.0で大きな柱とされるAIやビッグデータの活用を考えると、AIの予測やビックデータ解析の結果だけを示して説明しても、機械的な見解だけでは人の心に響かない。文化や風習や生活レベルで考えたときに、人の心や意識に働きかける説明力、情報発信力が求められると思います。

学長: 米持さんは情報学部なので、周りの学生さんたちとそのような話をされることが多いのでしょうか？

米持: 今は統計やプログラミングなど、目の前の学問で精いっぱいですが、ゆくゆくは社会に目を向けた考え方をもちたいと思っています。

布施: 私は「主体性」が必要と思います。医学の世界でいえば、これからは患者さんの症状や主訴(主な自覚症状)をデータ入力するだけで、AIが分析し提案した治療法の中から最適なものを選ぶという世界に変わっていくと思いますが、そのシチュエーションにおいて「AIが導き出した選択肢が本当にあっているのか？」と吟味することや、「AIの提案以外にも選択肢があるのではないか」と考える主体的な姿勢がないと、技術の進歩は終わってしまうのではないかと思います。

学長: これからの時代、主体性をもつて的確な判断を下す能力が求められますね。私自身を顧みましても、わりと指示待ち人間だったと反省するところがあります(笑)。

青木: 私はデジタル化が進む中で、「人とのつながりやコミュニケーション力」がより大切になると思います。デジタルの力と人と人とのつながりの良い面を共生させ、どの世代もが暮らしやすい、温もりある社会をつくっていくことが大切と考えます。





学長:言葉を介さないコミュニケーションというのは現状では人にしかできない、AIでは置き換えられない非常に大切なものです。青木さんは保健師さんになられるということで、そのような能力は非常に大事かと思います。

青木:頑張ります。

上野:私は「発想力」が大事だと思います。インターンシップなどで皆でアイデアを出し合うとき、同じ学生なのに育ってきた環境や地域などで視点が全く異なり、それがすごく印象的でした。目の前の課題に向けて一部の限られた人だけで考えずに、多様な視点からアイデアを出し合い、どうしたらSociety5.0の中で改善できるかを日頃から考えることが豊かな発想力につながると思います。

学長:発想力というのはどんな時代であっても非常に大切です。

永田:教育学部の目線で考えると「ICTの有効活用」だと思います。小中学校の理科では実感を伴った授業が特に重要とされ、知識技能だけならば教科書で得られるところを、敢えて実験やフィールドワークを行います。実際に自分の手でやってみると教科書どおりの結果は得られないこともあります。どこで躓いたかを考察する時に、例えばタブレット端末を用いて実験の様子を動画撮影し、実験後にスロー再生や拡大再生して詳しく調べ、考えていく。ICTと体験学習をうまく融合させることの大切さは、附属中学での教育実習の経験を通じて強く感じました。

学長:最近は教育現場の先行きが不安だという話も聞きますが、永田さんのような先生がいるということは、群馬県は大丈夫なのかなと思います。良い先生が群馬大学の共同教育学部からたくさん輩出されるようにしていきたいです。



▶「151年目の群馬大学」を語ろう

永田:最後になりますが、今回、「151年目の群馬大学」というテーマを設定させていただきました。それぞれの学生が望む群馬大学のあり方について、発言させていただきたいと思います。まずは私から。まず一つ目が高大接続の推進です。大学に入学してからいきなり勉強をするよりも、例えば、高校生の時から大学側と少しずつ連携して、オンライン授業などを受ける、自分が本当に学びたいものを知った上で大学に入ることが重要になると思います。二つ目は、現在、(共同教育学部では)高校教員の志望者が少なく、全体でも二けた乗るか乗らないくらいになっています。(群馬大学は)小中学校に向けた授業の教育は素晴らしいので、高校向けの授業のカリキュラムにも取り入れていただけると、思考力、判断力、表現力にも目を向けた、未来を見据えた高校教員が輩出され、高大接続も進むのではないかと考えています。高校教育のカリキュラムにも新時代の空気を吹き込んでいただきたいです。



学長:意欲の高い学生さんをリクルートするためには、高大接続というのは非常に大切だと思います。大学における講義を高校生にも受けられるようにするというのが一つと、もう一つは、群馬大学の中でも面白い研究をしている教員がたくさんいらっしゃいます。それを高校生に紹介することで、「群馬大学に入学してこのような研究をしたいな」と思っただけであれば、本当に意欲の高い学生をリクルートできるかなと思います。全学でオープンラボ的なものをつくり、高校生にどんどん来ていただけるようにしたいなと思います。

米持:私は群馬大学には「自ら能動的に学ぶ姿勢」を育む教育機関になってほしいと思います。先ほどのオンライン化の話であったり、Society5.0の話であったり、ものすごいスピードで変化していく社会に対応していくためには、今学んでいることだけで5年後、10年後も通用するかという、それはありえない。好奇心を持って知識をアップデートし続けていくことが求められる世の中になると思います。多様な教養教育の充実や、質の高い学部専門教育を維持していくことが重要だと感じています。

学長:米持さんがおっしゃられたように、教養教育を充実させれば、色々な課題を自分で見つけていくのに大いに役立つと思います。私自身としても群馬大学において教養教育をもっと充実させたいと考えています。

布施:私が「151年目の群馬大学」に望むことは、他大学や他学部との交流の機会をもう少し増やしていただければと思います。私が所属している医学部硬式庭球部には医学部医学科しか入れません。将来、医療者として、様々な事情や考え方をもった患者さんと接していくことになります。大学時代から、医学部医学科を含め、多くの方々と知り合う機会があれば、多様な考え方を育むことにもなるのではないかと思います。

学長:群馬大学はキャンパスが三つに分かれていて、一体感が乏しいとは私も少し感じていました。今年は創基150周年でその記念事業をやろうということで、コンセプトの一つが「全学としての一体感を持つ」なんです。学生同士も部活やサークルなどの活動を通じて交流を持つことで、人間の幅や深みが出てくると思います。そういう活動が活性化するように、仕組みを考えていきたいと思っています。

青木:私は、地域の方と一体となったイベントなどの開催が促進されればよいと思います。先日、地域の保健実習に参加した際、地域の方と関わったことで、達成感や充実

感が得られました。学んだことを地域に活かすかたちで、地域の方と一緒に運営できるイベントなどを増やしていただくと嬉しいです。



学長:地方にある国立大学の役割の中で特に重要なものは、「地域を元気にする」ということです。地域の方と大学との交流を深めるような活動をしていきたいと思っています。

上野:私は、学生の自主性を伸ばすために、ハードルの低い制度や仕組みが大学にもっとあればいいなと思っています。学生が「発想」や「企画」を気軽に相談して、失敗も込みで、その実行をバックアップしてくれる環境があれば、自主的に動ける学生がもっと増えていくのではないかと思います。

学長:非常に大切な点であると思いますので、検討したいと思っています。

永田:では最後に、石崎先生の目指されるこれからの群馬大学のあり方について、お伺いできればと思います。

学長:これからのSociety5.0社会で十分に活躍できる、そういう人材を養成できる大学にしていきたいと考えております。どういうスキルが必要かということは、皆様からご意見を伺いましたので、そちらを参考にしながら、人材の養成に努めていきたいと考えています。

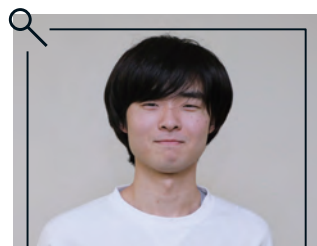
永田:本日は貴重なお時間をありがとうございました。以上でトークセッションを終えたいと思います。

✓このコーナーの取材を担当した学生広報大使

撮影担当[桐生写真部]



理工学府博士前期課程1年
大澤 郁弥
(おおさわ・ふみや)



理工学部3年
加藤 優佑
(かとう・ゆうすけ)

重粒子線医学研究センターを 徹底解明しました！



医学部附属病院を置く昭和キャンパスの一角に構える重粒子線医学研究センター。“重粒子線治療と、最先端のがん治療研究を行っている施設”ということとはなんとなく知ってはいるものの、建物の中では実際にどのようなことが行われているのでしょうか？一緒に、センターの中をみていきましょう！



ナビゲーター
医学部医学科3年
森 なつ実
(もり・なつみ)

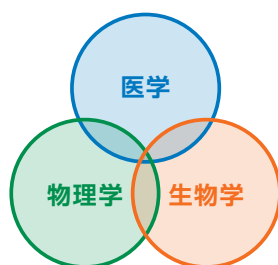
えっ！世界で2番目！？

群馬大学では重粒子線治療法の高度化と治療技術の開発を目指し、研究をさらに推進するため、2005年6月に群馬大学重粒子線医学研究センターを設立しました。がんの重粒子線治療施設は世界に15施設、日本国内には7施設あります(2023年1月現在)。その一つである本センターでは、大学の施設としては世界で2番目に重粒子線を用いたがん治療が行われ、これまで日本の放射線腫瘍学分野で先導的な役割を果たしてきました。本センターは、がん治療を担う放射線治療医の育成に取り組み、多数の専門医を輩出しています。また、放射線利用に関する国内の代表的研究機関である量子科学技術開発機構(旧放射線医学総合研究所)や海外の粒子線治療研究施設と連携し、放射線を利用した医学、生物学、物理学研究の推進と研究者の育成にも力を入れています。

センターを構成する3つの部門

重粒子線医学研究センターでは、医学部門、生物学部門、物理学部門の3部門がそれぞれの強みを生かして連携しています。また、大学院医学系研究科や大学院理工学府と連携し教育・研究が行われています。

物理学部門：重粒子線治療を継続的で安定して行うためには、設備の管理や治療装置の品質管理が重要となります。物理学部門はこうした管理に加え、患者さんの治療計画の立案、検証にも大きな役割を果たしています。また、重粒子線治療の新規技術開発に関する研究を行っています。



医学部門：医学部附属病院で重粒子線治療を担当する医師を中心として、がん治療成績の解析、新規の治療プロトコルの開発など、重粒子線治療の適応範囲の拡大や治療成績向上に取り組んでいます。また、院内の様々な診療科や院外の医療施設とも連携して研究を進め、放射線治療専門医の育成も行っています。

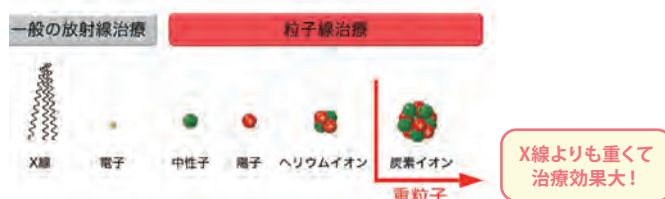
生物学部門：培養細胞や動物を用いて放射線、重粒子線の照射実験を行い、細胞レベルの現象を解明し、より高度で効果的な治療に応用するほか、宇宙放射線影響に関する生物研究にも力を入れています。

日本におけるがん治療の実際

現在がん治療は3つの大きな柱①外科的治療(※)②放射線治療③抗がん薬物治療)からなっています。日本国内では、がん治療というと外科的治療が重視されがちですが、放射線治療には外科的治療にはないメリットも多くあります。実際にかん患者さんのうち放射線治療を受けているのは日本では25%程度、欧米では50-60%程度とされています。放射線治療には「切らずにがんを治療できる」というメリットがあります。なるべく普段通りの生活を送りながら、通院で治療を受けることができるのも大きな利点です。一般的な放射線(X線)は透過性が非常に高く、ターゲットとなる腫瘍部分以外に周りの正常な組織もダメージを与えてしまうというデメリットがありました。この課題を解決したのが重粒子線治療で、現在その有用性が次々と示されています。※手術のこと。

そもそも、重粒子線とは？

一般的な放射線治療ではX線や電子線が使われていますが、実は放射線の中には様々な種類が存在しており、粒子線もその一つです。さらに粒子線の中でもヘリウムイオンより重いものは重粒子線と呼ばれ、群馬大学の重粒子線治療では炭素イオンが用いられています。イオンがより重い分、腫瘍細胞に対してより大きなダメージを与えることができます。



(群馬大学重粒子線医学研究センターwebsiteの図を一部改変)

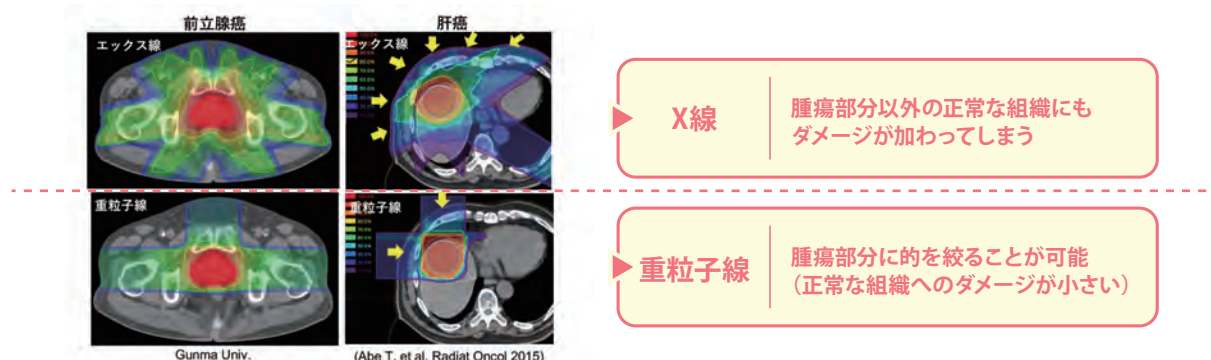
重粒子線治療の特徴

がんの重粒子線治療には以下の特徴があります。

- ①物理学的特徴: ターゲット(腫瘍細胞)に集中して線量を照射でき、周囲の正常組織へのダメージを避けることができる
- ②生物学的特徴: X線と比較して腫瘍細胞により致死的なダメージを与えることができる
- ③治療期間: 照射を分割する必要性が小さく、短い期間で治療を終えることができる

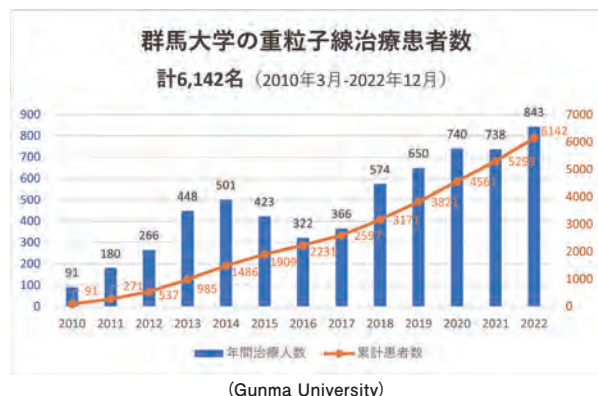
重粒子線は、X線にはない特徴的な性質を有します。一般的な放射線治療で用いられるX線は、腫瘍の前後左右にある正常な組織にまで透過しダメージを与えてしまうという欠点がありました。一方の重粒子線では、ターゲットとなる腫瘍部分で最大の効果を発揮し、腫瘍部分を超えてそれ以上先へ進むことなくその場で止まるという特徴があります。これにより、周囲の正常組織へのダメージを最小限に抑え、腫瘍部分を狙い撃ちすることが可能となります。

最大の線量を発揮する深さは調節可能で、より腫瘍の形状に合わせて照射することができます。



10年以上の治療実績があります

群馬大学では2010年3月から2022年12月の間に、6,142名の患者さんに重粒子線治療を実施しました。対象は肝臓、頭頸部など全身の臓器に及びます(表1)。先進医療として実施される医療技術は、安全性や有効性が定期的に厚生労働省に報告され、公的医療保険の適用となるかが判断されます。2016年に初めて保険適用となった骨軟部腫瘍をはじめとして、多くのがん種が保険適用となり、2022年4月には新たに5つの疾患が保険適用として認められました。



(表1) 群馬大学で重粒子線治療の対象となる主ながん

部位	病状	公的医療保険	先進医療
頭頸部	口腔・咽喉頭の扁平上皮がんを除く	○	
肺	臨床病期がⅠ期からⅢ期まで		○
肝臓	肝細胞がん(4cm以上)*	◎	
	上記以外		○
	肝内胆管がん*	◎	
脾臓	局所進行性*	◎	
大腸	術後骨髄内再発*	◎	
子宮	頸部腺がん*	◎	
	頸部扁平上皮がん、悪性黒色腫		○
前立腺	転移なし	○	
骨軟部	骨や軟部から発生したがん(肉腫)*	○	
転移	肺、肝臓、リンパ節のいずれかに限局*		○

*根治的な手術が適応とならない場合

◎は令和4年4月に新たに追加されたもの

(重粒子線医学研究センター提供)

治療施設をみてみよう！

重粒子線のがん治療に使用するためには、粒子を非常に速い速度まで加速する必要があります。そのため治療施設の中では、まず線形加速器で予備的な加速を行い、イオン源装置により生成した炭素イオンをシンクロトロン加速器で光速の70%程度の速さまで加速します(右頁参照)。こうして加速された炭素イオンは治療室にて患者さんの腫瘍に照射されます。照射中に痛みや熱さなどを感じることはありません。



快適さを重視した待合室



診療放射線技師さんからお話を伺いました



センターの模型を動かしてみました

センター長の大野先生にお話を伺いました。

Q:重粒子線治療医をめざされたきっかけはありますか？

A:学生の頃に感じた放射線治療への将来性が、重粒子線治療医を目指したきっかけです。その当時から群馬大学では放射線治療に力を入れていたものの、今ほど一般的には知られていませんでした。現在は重粒子線治療の可能性を再確認するとともに、それを受け継いだ責任も同時に感じています。

私たちの目指すゴールは「患者さんの幸せ」であり、重粒子線治療はそれに向けた手段の一つだと思っています。治療がうまくいくかいかないかだけではなく、患者さんに納得していただくことを大切に、そのために最善を尽くしています。

【プロフィール】

千葉県千葉市出身。群馬大学医学部を卒業、群馬大学大学院修了。2001年放射線医学総合研究所重粒子医科学センター病院採用、2003年重粒子医科学センター病院第2治療室医長、2007年より群馬大学重粒子線医学研究センター准教授を経て、2011年より重粒子線医学推進機構重粒子線医学センター教授、



2019年より群馬大学大学院医学系研究科教授。放射線治療全般、粒子線治療、婦人科腫瘍を専門としている。放射線治療専門医。

群馬大学重粒子線医学研究センター長
群馬大学大学院医学系研究科教授

大野 達也
(おの・たつや)



Q:センターの理念や目標を教えてください。

A:放射線治療医だけでなく、他の診療科の医師、看護師、診療放射線技師、医学物理士、生物研究者、事務員など、様々な医療分野の専門家が協働し、この治療を必要とする患者さんに先進的で安全ながん治療を提供できるように心がけています。また、重粒子線医学分野の技術開発や人材育成をさらに推進して、群馬大学が重粒子線がん治療の国際的な拠点となるよう努めています。

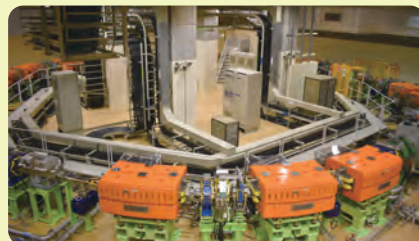
小型化に期待！未来の加速器

多くのメリットを誇る重粒子線治療ですが、唯一のデメリットが加速器の必要性に付随する高コストと装置の大きさです。初期の装置よりも縮小された群馬大学の装置でも体育館ほどの大きさがあります。そこで現在では、加速器のさらなる小型化の研究が進められており、将来的には病院内に収まるほどの大きさまで縮小することが可能だそうです。これは期待したいですね！



治療室

加速された炭素イオンはここで患者さんに照射されます。重粒子線照射中に痛みはありません。



シンクロトロン加速器

線形加速器から送られた炭素イオンはシンクロトロンの中を周回している間に光速の70%の速さまで加速されます。



イオン源装置

ここで化学物質の中の炭素原子から炭素イオンが作られます。



線形加速器

炭素イオンに主加速器であるシンクロトロンに送り込む前に予備的な加速を行います。



取材を終えて

今回実際に治療施設を見学させていただいて、設備が巨大で大掛かりであるだけでなく、あらゆるところに患者さんへの細やかな配慮が散りばめられていることを知りました。重粒子線治療に携わられている先生方やスタッフの方々の、患者さんを第一に考える気持ちがダイレクトに伝わってきたことが印象的でした。

✓取材を担当した学生広報大使

医学部医学科3年 森 なつ実 (もり・なつみ) 【出身高校：北海道釧路湖陵高等学校】



研究紹介

先端粒子線医科学共同研究講座
(日立製作所)

群馬大学と株式会社日立製作所は、2022年4月1日付で群馬大学重粒子線医学推進機構に共同研究講座「先端粒子線医科学共同研究講座(日立製作所)」を設置しました。放射線治療の中でも粒子線という限られた資源の有効活用と、粒子線の長所を最大限活かした治療法の開発を目指し、2024年3月までの2年間チームを率いる岡野奈緒子先生にお話を伺いました。

(取材担当:医学部医学科3年 森なつ実)

【プロフィール】

東京都出身。群馬大学医学部医学科卒業、群馬大学大学院医学系研究科博士課程を修了。放射線治療専門医、日本医学放射線学会研修指導者、がん治療認定医、臨床研修指導医、国際協力型放射線・粒子線腫瘍学指導者コース修了。群馬大学助教を経て、2021年より群馬大学重粒子線医学推進機構准教授。診療を行いながら研究にも精力的に取り組んでいる。

重粒子線医学推進機構
先端粒子線医科学
共同研究講座(日立製作所)
准教授

岡野 奈緒子

(おかの・なおこ)



「大学」の知見と「企業」の技術力を結び付ける

重粒子線治療には、「痛みや体の負担が少ない」、「外来で治療が可能である」、「通常のX線による放射線治療と比べ、治療期間が短い」、「正常な細胞へのダメージを軽減できる」などの特徴があります。この特徴を活かし、仕事や日常生活を続けながら治療を受けられるという大きなメリットがあります。一方で、以下のようにより良い治療に向けた今後の課題もあります。

①治療中に起こる、がんの形状・周囲の臓器の位置や内容などの変化に合わせて、より無駄なく確実に照射するための流れ(ワークフロー)の確立。

②現状で十分な制御が得られていない腫瘍に対する局所照射方法の改良や、他治療との併用効果の検証など、さらなる治療成績の向上のための治療方法の検討・開発

そこで、これらの課題を解決し重粒子線治療を発展させるために、長年の豊富な治療実績を有する学術研究機関(群馬大学)と、最先端のデジタルテクノロジーを持つ企業(株式会社日立製作所)の連携が必要であるとの考えから、2022年4月に「先端粒子線医科学共同研究講座(日立製作所)」の設置に至りました。株式会社日立製作所からは、ヘルスケア・イノベーションの分野に従事してきた技術者2名が本学とのクロスアポイントメント制度を利用して共同研究講座助教に就き、多くの教員や技術者と協力して研究を行っています。



共同研究講座を置く
群馬大学重粒子線
医学研究センターの
HPはこちら



共同研究講座設置報告会の様子(群馬県庁32階NETSUGENセミナースペース)

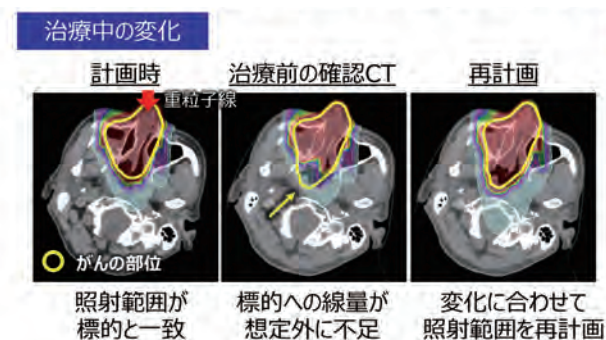
「アダプティブ治療」のワークフローの構築と、 AIを活用した重粒子線治療の進化のためのシーズ探索

先端粒子線医科学共同研究講座(日立製作所)では、大きく分けて以下の2つの側面から研究を進めています。

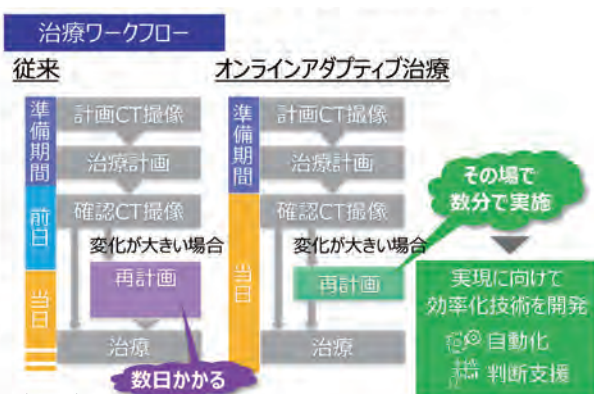
- ①患者さんの日々の微小な変化にもリアルタイムで対応する治療システムの構築
- ②人工知能(AI)を活用したビッグデータの解析

①患者さんの日々の変化にリアルタイムで対応するシステムの構築

これまでの重粒子線治療の流れ(図2)では、治療計画の段階でCT撮影し、腫瘍の形に合わせて照射範囲を設定していても、治療直前の再撮影で腫瘍やその周りの組織の形状が変化していた場合に大幅な変更が必要となるため、治療の再計画に数日を要していました。(このように変化に合わせて調整した治療を行うことを「アダプティブ治療」と言います。)そこで、本共同研究講座では、この治療の再計画をより迅速に行うための技術「オンラインアダプティブ治療」の技術を開発する研究を進めています。従来とは異なり数分程度で再計画が実施できれば、実際の治療の時点で状況を確認し、それに合わせて再計画・照射まで行うことが可能となり、ほぼリアルタイムで変化に合わせた最適な治療を行うことが可能となります。これにより、治療効果を高め、有害事象を軽減することができます。

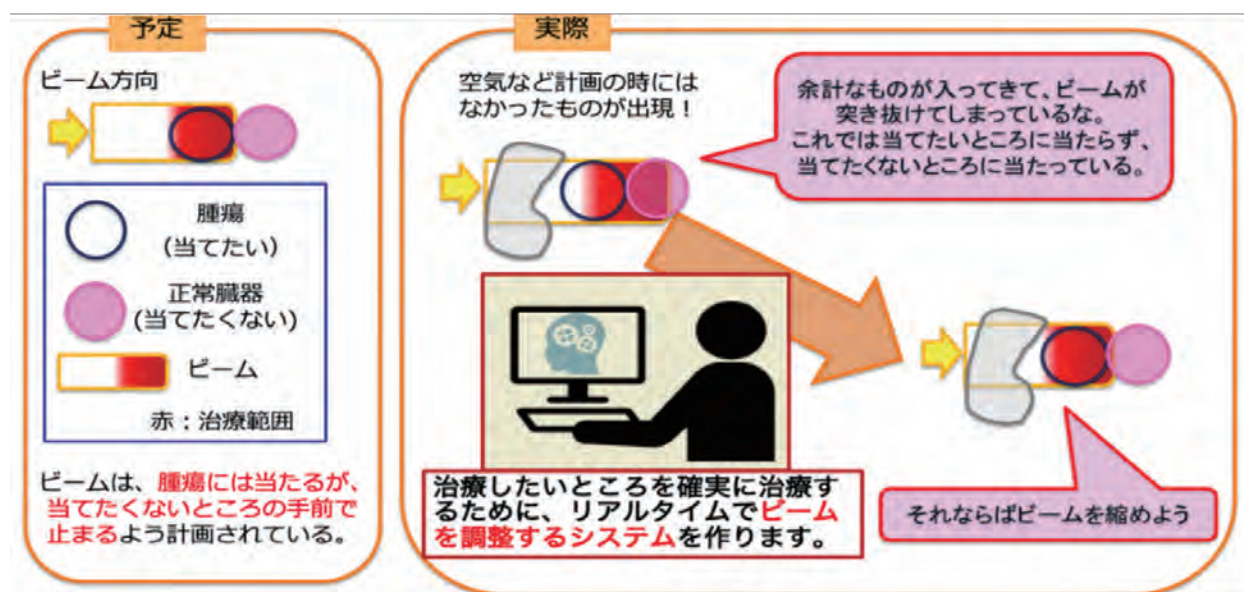


(図1)



(図2)

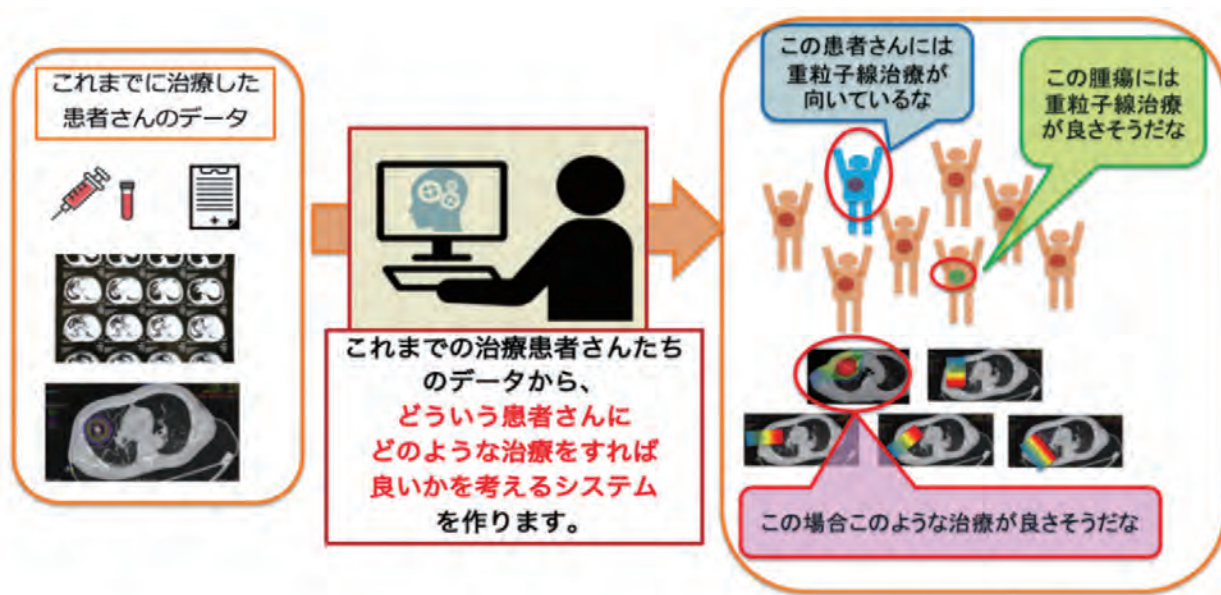
ターゲットを確実に狙う アダプティブ重粒子線照射技術の開発



②人工知能(AI)を活用したビッグデータ解析研究

これまでに群馬大学は10年以上の重粒子線による治療実績を通じ、6,000例を超える治療実績データと豊富な臨床に関する知見(治療効果や副作用に関する情報)を有しています。これらのデータを日立製作所のAI技術を用いて網羅的に解析することで、治療内容や効果の再評価、QOL(患者さんの生活の質)の確保、治療効果の向上などの課題解決の糸口を見つけ出そうとしています。現在は、複数種類の情報を解析できるシステムの構築を目指しています。

人工知能(AI)を活用して 最適な重粒子線がん治療を提供する研究



重粒子線治療について教えて、岡野先生!

Q:重粒子線治療にかかる期間はどのくらいですか?

A:がんの種類や部位、大きさによりますが、1週間から4週間という短い期間で行います。

Q:1回あたりの治療時間はどのくらいですか?

A:病気によっても異なりますが、例えば前立腺癌では1回の治療にかかる時間は20分~30分くらいです。治療前の準備や装置までの移動などを含め、患者さんの1日あたりの病院滞在時間は1~2時間くらいでしょうか。

Q:治療期間中の過ごし方について、何か制限されることはありますか?

A:治療前に空腹状態にしておく必要のある検査などの前に食事制限(3時間くらい)を受けることはあったり、治療する臓器によっては便秘をしないように気を付けてもらうことはありますが、それ以外に実生活に特に差し支えるような行動や食事の制限はありません。

Q:重粒子線の照射に痛みはないでしょうか?

A:照射治療自体では痛みは全く感じません。健康診断などで胸部X線(胸のレントゲン)画像を撮ったことがある方ならイメージしやすいと思いますが、重粒子線もX線のように体に感じないビームを使用しておりますので、照射自体による痛みは全く感じないのです。ただし、照射中に体を固定するため、固定具や固定して静止していかなくてはならないことによる圧迫感や痛みを感じることはあるかもしれません。



照射室(群馬大学重粒子線医学センター)

臨床現場における相互理解をAIが後押し

共同研究講座ではこのアダプティブ治療の他にもAI技術の活用の可能性に着目し、研究を進めています。例えば、臨床現場においてより良い治療を行うには、医療スタッフと患者さんの相互理解が必要不可欠ですが、これをスムーズにするためにAI技術を活用することを想定しています。具体的には、患者さんの伝えたいことや希望を汲み取り、また、医療スタッフの説明をより分かりやすくするためのサポートツールとなるアプリの開発に、日立製作所のAI技術を活用できないかということなどです。「医療者」と「デジタル技術者」という異業種の専門家から成る共同研究講座だからこそ取り組むことのできる、新しい研究テーマに挑戦しています。



「臨床治療データとAI技術の活用でどのような研究成果が得られるか、とても楽しみ」と語る岡野先生

Q 企業との共同研究の「難しさ」や「やりがい」はありますか？

A 異業種間で協力する「難しさ」と「やりがい」のどちらも感じます。「難しさ」としては、医師には診療等の対応がイレギュラーに入るため、打合せの時間を合わせにくいことがあります。また、それぞれで使用する専門用語が異なるため、先ずは互いの専門用語を覚え、相互理解を深める必要があります。オンラインミーティングも活用しながら情報交換を重ね、開始から数ヶ月が経った現在では、互いの感覚がだいぶ掴めてきたように思います。「やりがい」としては、専門外の異文化の知識を持つ日立製作所のブロの研究者の方々とのやりとりから今までの考え方とは異なる解釈や方法論を学ぶことができ、これまでとは違った知見が得られることが、何より勉強になり面白いですね。

Q 外科的治療が重視されている日本のがん治療について

A 日本の外科医には手術手技の丁寧な方が多く、また、手術成績も世界的に見ても高いレベルにあると思います。このことも外科的治療（手術）を選ぶ方の多い理由のひとつかと思います。実際には、外科的治療、放射線治療、化学療法それぞれにメリットがありますし、複数の治療法を併用することもあります。よって、すべての選択肢がしっかりと提示され、その中で患者さんにとってより適切で、治療の可能性が広がり、患者さんが希望する治療法が受けられることが望ましいと考えています。そのため、放射線治療を受けたいと重粒子線外来にみえた患者さんに対しても、「手術のお話は聞きましたか？」「手術の可能性については考えましたか？」と、まず初めに確認しています。



✓取材を担当した学生広報大使



医学部医学科3年 **森 なつ実**（もり・なつみ）【出身高校：北海道釧路湖陵高等学校】

今回の取材を通して、がんの重粒子線治療において群馬大学の果たす役割の大きさを知りました。また重粒子線治療に関わる先生方が、患者さんの希望に寄り添いながらより良い治療を行いたいという思いで日々向き合われていることを強く感じました。精力的に行われている日立製作所との共同研究の成果が一日も早く実用化に結びつく日が来ることを願っております。



輝く群大生

生方 美久 (うぶかた・みく)

脚本家。1993年群馬県富岡市出身。2016年群馬大学医学部保健学科卒業。助産師をしながら独学で脚本を学び、2021年「第33回フジテレビヤングシナリオ大賞」で大賞を受賞。2022年10月からフジテレビ系で放送された連続ドラマ「silent」の脚本を手掛け、本ドラマは大きな話題呼んだ。趣味は映画、ドラマ、音楽鑑賞。



話題のドラマ「silent」を手がけた

Interview

脚本家の生方美久さんにインタビュー!!

群馬大学医学部保健学科の2016年卒業生で、昨年Twitterなどで話題をさらったテレビドラマ「silent」を手がけた脚本家の生方美久(うぶかた・みく)さんにお話を伺いました。

✓このコーナーの取材を担当した学生広報大使

インタビュー担当



社会情報学部3年
荒川 瑠香
(あらかわ・るか)
【出身高校: 国学院大学栃木高等学校】



医学部保健学科1年
高橋 明日香
(たかはし・あすか)
【出身高校: 群馬県立富岡高等学校】

撮影担当「桐生写真部」



理工学部博士前期課程1年
大澤 郁弥
(おおさわ・ふみや)



▶助産師になるため奮闘した学生時代

荒川:今回、生方さんにインタビューするということで、私たち学生広報大使で事前に質問したいことを考えてきました。はじめに、群馬大学との関わりについてお聞きしたいと思います。生方さんが群馬大学を選んだ理由、そして、医学部保健学科を選んだ理由について教えていただきたいです。

生方さん※以下敬称略:やはり地元の国立大学という点が一番の魅力を感じました。看護師を目指そうと思ったのは高校3年生になってからで、保健学科を志望する上で、群馬大学には附属病院もありますから、それも大きかったですね。

荒川:看護師を目指すきっかけはあったのですか？

生方:2歳の時に大きな病気をして、記憶はないのですが、中学生くらいになってから両親からその時の話を聞かされて、すごく単純なのですがそれで最初は医者になりたいと思ってました。でも実際に高校生になると、国立大学の医学科に入学するのはなかなか難しいと思って…。働ける場が一番広い医療職が、看護師ではないかと思って、志望しました。

荒川:保健学科の授業で印象に残っている授業や、大変だった実習とかはありましたか？

生方:印象的だったのはやっぱり産科の分野ですね。

もともと助産師になろうと思って保健学科の看護学専攻に入学したわけではなかったのですが、産科の授業を受けて、助産師というのに興味をもつようになりました。大変だったのもやっぱり助産師コース。4年生の1年間の助産の勉強がとにかく大変でした。(インタビューの高橋さんに向けて)あれ？今1年生？助産師…。

高橋:はい。1年生です。助産師コースを目指しているんです。

生方:ああ！頑張って！ああ、ネガティブなことを言わなきゃよかった(笑)。すごく、やりがいがあります！

一同:(笑)。





▶話題のドラマ「silent」

高橋: 昨年、生方さんが脚本を手がけたドラマ「silent」についてのご質問です。ドラマでは手話が多用されていましたが、学生時代に手話を使うきっかけや経験があったのですか。

生方: それが全然なくて。群大に手話のサークルがあることは知っていましたが、関わりはありませんでした。今回のドラマも、プロデューサーから手話を使う話をもって、私の方でストーリーを考えたという形でした。ただ、脚本を書くことが決まって、手話教室に半年ぐらい通って勉強しました。

高橋: 生方さんはクラブ・サークルなどに所属していましたか？楽しかった思い出などがあれば教えてください。

生方: 1年生の頃から生協の学生委員会に所属して

いました。みんなでワイワイと企画を考えて、実行して。そんなことをずっと繰り返しやっていて。今思えば、ドラマ作りと似ているようなことをやっていたなと思います(笑)。

荒川: 生方さんは富岡市のご出身ですが、「silent」でも口ケ地に群馬が使われてたりしていて、群馬の好きなところがありますか？

生方: 群馬の好きなところ…田舎といえば田舎ですけど、言うほどではないじゃないですか(笑)。なんか、つまらない答えですけど、東京にも日帰りで遊びに行ったりできる距離じゃないですか。程よく田舎だけど、さらっと東京にも行けちゃうみたいなその距離感はドラマでも使いやすかったです。(現在は東京で暮らす)自分としても帰ろうと思えばいつでも群馬に帰れるみたいな安心感がありますね。

▶群馬大学の魅力

荒川: 群馬大学の魅力と言えなにでしょう？

生方: 自分の学生時代を振り返っても、国立大学、そして附属病院があるというのを理由に進学してきた友人が多かったです。そこはやっぱり大きな魅力だなと思います。他の学部のことは詳しく分からないけれど、私立大学と比べたら学費が全然違いますし、附属病院のあるなしでも学べる環境ってかなり違ってくると思います。



日本のカルチャーが好き。好きな音楽は邦楽の、基本、ロックばかり(笑)。

▶脚本家という仕事

高橋:脚本家をやる上でうれしいことややりがいについて教えていただけますか。

生方:ドラマ化されて反響をもらうというのも、もちろんうれしいのですが、自分と一緒に作ってきたスタッフやキャストの方から直接、具体的にここが良かったとか、脚本のここが好きですとか、そういうことを言ってもらえるのが私としてはやりがいになりますね。最終回が終わってから、スタッフやキャストからお礼を言っていただけると、大変だったけどやって良かったなって思います。

荒川:脚本家というお仕事をする上で影響を受けたドラマなどはありますか？

生方:自分がドラマをすごく好きになったきっかけは、脚本家の坂元裕二さんでした。好きなドラマを並べたら、坂元さんの脚本作品ばかりだって気づいて、それで脚本に興味を持ったっていう感じですね。映画もよく観ますよ。元々は映画を作りたいくて、脚本を始めました。最初は映画監督になりたいと思って、まずは脚本をかけるようになっていったのがきっかけです。

荒川:脚本家として、これからやってみたいお仕事はありますか？

生方:やっぱり映画の脚本を作りたいですね。できる

だけ原作がないものを書きたいというのが目標としてあるので、オリジナル映画というのがまずは目標です。

荒川:ちなみにその映画ではどんなものを描きたいですか？

生方:ファンタジーとかSFとか派手なアクションとかよりは人間ドラマ、リアリティのある人間ドラマが好きなので、でも今回(「silent」で)ラブストーリーはやったから、ラブストーリーはしばらくはちょっといいかな(笑)。人間ドラマを書きたいなというのがあります。

▶今できることを精一杯やってみて

高橋:本企画は高校生の読者がメインとなっていますので、最後に高校生や受験生に応援メッセージをいただけると嬉しいです。

生方:私も大学受験ではめちゃくちゃ勉強して、ギリギリで受かったって感じなんですけど(笑)。実は私、高校受験で第一志望の高校には落ちています。でも、結果的に大学受験では第一志望だった群大に入学することができました。結局、行った場所でどうするかだと思うので、やっぱり今できることを精一杯やる。まだ18歳、この先何とでもなるよってことかな。



インタビュー後、「久しぶりの昭和キャンパスや後輩との交流はとても楽しく、リフレッシュになりました。」と感想をくださった生方さん。

群馬大学で本格的に手話を学ぼう!

— 手話サポーター養成プロジェクト室 —



群馬大学は、手話が本格的に学べる日本でも数少ない大学です。

みなさんは手話にどんなイメージを持っていますか。テレビドラマ『silent』で主人公の紬(つむぎ)と想(そう)が語り合う恋人の会話を見ていると、音声では伝わらない、もっと心の奥深くまで通じあえるようなものを感じる人もいたかもしれません。身ぶりのようにみえるので、手話を知らなくてもなんとなくわかることもあり、「手話って覚えやすそう」と感じる人もいたかもしれません。

実は、手話も音声言語と同じく、独立した言語体系を持っているので、手話をきちんと習得しようすると、中学・高校で英語を学んだように、しっかりした体系的なカリキュラムのもとで学習する方がよいと言えます。

手話サポーター養成プロジェクト室では、第二言語として日本手話を学び、また手話通訳の資格取得を目指すことができる授業を展開しています。1年目の「言語としての日本手話IA・IB・IIA・IIB」は、教養教育として行っているため、所属学部に関係なく誰もが履修できます。この授業では、日本手話の基本的な文法を身につけ、日常会話レベルの話題について手話でやりとりすることができるようになります。4つの授業をすべて履修することで手話奉仕員の資格取得が可能です。2年目以降の「日本手話と日本語の違いを学ぶI・II・III」は、共同教育学部の専門科目の授業となります。厚生労働省手話通訳

者養成カリキュラムに対応しているので、すべて履修し終わると手話通訳者全国統一試験の受験資格が得られます。

手話サポーター養成プロジェクト室のろう者・聴者の教員は、日本手話・手話通訳の教育のプロです。第二言語として日本手話をスムーズに習得できる指導方法や、手話通訳養成のあり方について日々研究と研鑽を重ねています。



ある日の授業

自分たちの手話通訳映像をチェックして訳出を検討



プロジェクト室のスタッフ
ろう者も聴者も会話は手話!

プロジェクト室のろう者の教員を紹介します!

准教授 中野 聡子 (なかの・さとこ)

5歳の時から少しずつ聴力が低下していったのですが、手話に出会ったのは、実は大学に入学してから。「ああ、これだ!」と思いました。だって、それまで音声飛び交う会話の中に身を置いて耐える毎日だったのですから。手話はろう者にとってなくてはならないもの。そんな思いが、手話の教育や研究に関わり続ける原動力となっています。群馬大学で一緒に手話の勉強をしましょう!お待ちしております!



学生の声

共同教育学部
特別支援教育専攻
1年

折原 朋

(おりはら・とも)

この講義では、手話の単語や文法だけでなく、ろう文化についても学ぶことができます。初めは、なかなか思うように手話ができなかったり読み取れなかったりして大変でした。大変なのは今も変わりないですが、少しずつ手話だけで話の内容が理解できるようになったり、誰かと会話できたりして楽しさを感じる場面も多くなりました。また、この講義を通して、言葉を話せて書けることがコミュニケーション方法の全てでないことを学びました。一つの事実に固執せず、その事実を多面的に見ることが大切だと感じています。手話を身につけて、ろう者聴者関係なく多くの人の言葉に耳を傾けられるようになりたいです。



共同教育学部
障害児教育専攻
4年

保坂 南

(ほさか・みなみ)

小学校の時に、聴覚障害の友人がいて、それが手話に興味を持つきっかけになりました。大学の講義で手話を学び始めてから、アルバイト中にろう者のお客さんと手話で話すことができ、帰り際に「また来るね」と言ってもらえて本当に嬉しかったです。卒業後は特別支援学校の教員になります。学んだ手話を活かして多くの子どもと関わってみたいです。



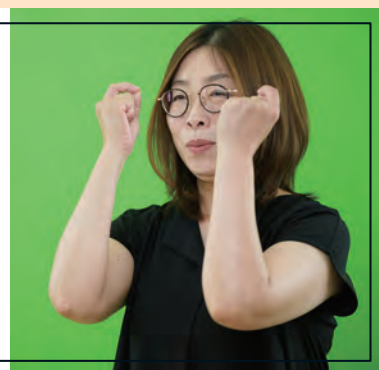
手話で話している
様子はコチラ！



大学で教員として仕事をしている障害者って、とっても珍しいんです。そんなろうの先生と直接手話でやりとりしながら手話や聴覚障害に関わることを勉強できるのが群馬大学です！

研究員 下島 恭子 (しもじま・きょうこ)

私の家族は私以外全員聴者でしたが、親戚にろう者が多く聾学校にも通っていたので、幼少期から手話がある環境で育ってきました。約15年前、群馬大学大学院を受験した時、「日本手話で学びたい!」というお願いに大学は答えてくださり、講義からゼミまで内容が全て分かるという、これまでにない感動を経験しました。これが当たり前の社会になることを願って、みなさんもぜひ群馬大学で日本手話を学びませんか。



あなたの手話に関する疑問に答えます！



Q 手話と身ぶりはどう違うの？

A 手話も身ぶりも手と身体を使って表現をするので、一見同じようにみえます。でも、例えば「私は将来会社を立ち上げるつもりだ」という意味のことを身ぶりで伝えるとしたら、どのように表現しますか。1人1人表現が異なってくるはずですし、「将来」「会社」「立ち上げる」「～するつもり」などを正確に伝えるのは難しいでしょう。手話には、抽象性の高い概念も含めて、これらを表す語彙があり、正確に意味を伝達する文を組み立てるためのさまざまな規則（文法）があります。そして、今現在のことだけでなく、過去のこと未来のことも語ることができます。このような特徴を持っているのが言語です。それゆえ、手話は身ぶりとは異なり、独自の文法体系を持つ自然言語であるとされています。

「私は将来会社を立ち上げるつもりだ」の手話表現はこちらから ▶



Q 手話辞典にある単語を覚えたら手話で話せるようになる？

A 手話単語を日本語の語順通りに並べて話すものは、手指日本語、あるいは日本語対应手話と呼ばれています。伝達方法が音声から手と身体に変わっただけで、言語としては日本語のままなので、日本語を母語とする人々には学びやすく、使いやすい手話だと言えるでしょう。一方、日本手話は、日本語とは異なる文法体系・文化的背景を持っているので、日本語の単語と一对一の結びつけができるとは限りませんし、文法や日本手話特有の言い回しを習得する必要があります。



Q 手話には文字がないって本当？

A 手話は文字を持たない言語です。これまでさまざまな表記法が開発されてきましたが、手や身体の細かな動きを区別して記述するのは非常に難しく煩雑になりがちで、あまり普及しませんでした。手話の指導では、手話単語を日本語の意味の近い単語に置き換え、これに非手指表現（NM）の文法的要素を記号で表記するラベル文を用いています。「あの人は誰？」の手話表現とラベル文を見比べてみましょう。

/PT3(t) 誰(wh)/

※1 PT3は、私（PT1）・あなた（PT2）以外の人やモノを指す代名詞

※2 「t」は、話題化のNMで「眉を上げる」という指示の記号

※3 whはwh疑問のNMで、「頭を少し前方に出して、目を見開き、軽く首をふる」という指示の記号



動画はこちら

Q 手話は世界共通？

A 手話は国や地域などによって異なり、世界で400種類以上あると言われています。日本では、「日本手話（Japanese Sign Language: JSL）」が使われています。手話の派生にも地理的・歴史的要因が絡んでいます。台湾手話や韓国手話は、いずれも日本統治時代に日本人の教員が派遣されて手話が普及したと言われており、日本手話と共通する表現が多くみられます。意外に思われるかもしれませんが、イギリス手話とアメリカ手話では言語的な距離はそれほど近くありません。



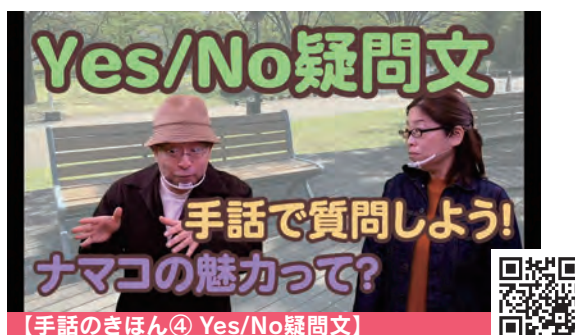
Q 聞こえない人はみんな手話を使うの？

A いいえ。聞こえなくなった時期、聞こえの程度、受けてきた教育、家庭環境や生育環境などによって、最も通じやすいコミュニケーション方法はさまざまです。日本手話は、生まれつき聞こえず、ろう学校で教育を受けた人に多く用いられています。どんなコミュニケーション方法が良いのかというのは、聞こえない人がそれぞれの人生の中で模索しながら決定してきた経緯があり、日本手話、日本語対应手話、口話、聴覚活用など、さまざまです。その人が使っているコミュニケーション方法を尊重し、特定の手段を押しつけることがないようにしましょう。

ちょこっと手話レッスン

ベストティーチャー賞を受賞したこともある大人気の講義「手話とろう文化」。

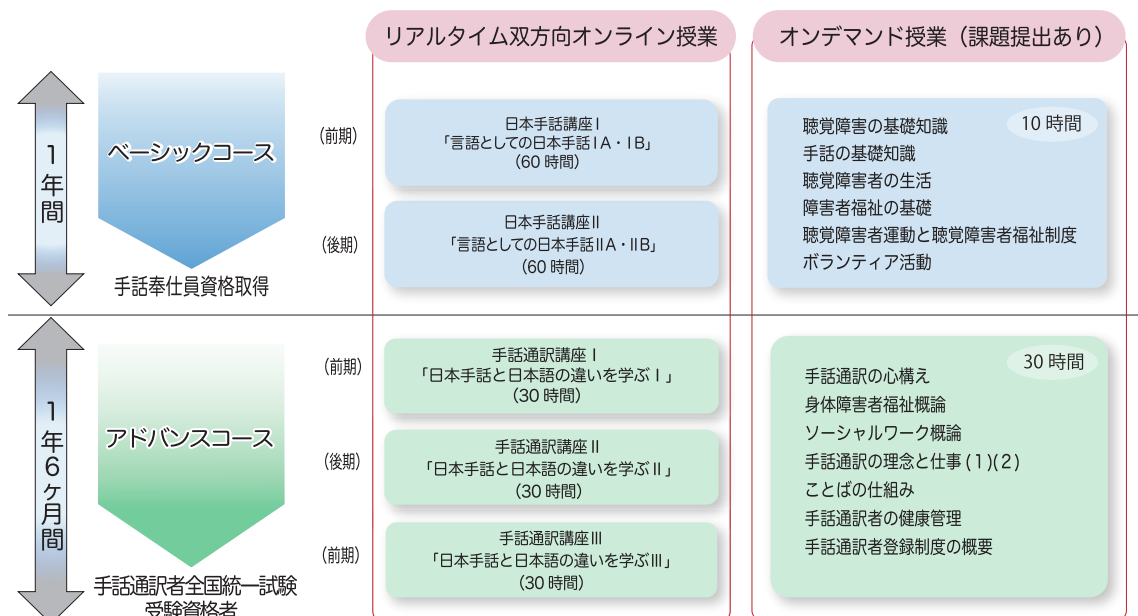
一部をダイジェスト版でご紹介します。動画を見ながら手と身体を動かして、手話を使ってみましょう！



日本手話実践力育成プログラムが始まります！

群馬大学共同教育学部では、大学で日本手話や手話通訳を専門的に学びたい社会人の方を対象とした「日本手話実践力育成プログラム」(履修証明プログラム)を2023年度から始めます。日本手話の基礎を身につけるベーシックコースは120時間、日本語と日本手話の言語・文化的な違いをふまえた通訳スキルを身につけるアドバンスコースは90時間。平日の夜間にオンラインで開講しますので、お仕事を続けながら、第二言語習得理論・外国語教授法・通訳理論の知見やノウハウを取り入れた本格的な指導を受けて学ぶことができます。修了者には、学校教育法に基づく履修証明書が交付されます。本プログラムは、厚生労働省の手話奉仕員・手話通訳者養成カリキュラムに準じていますので、ベーシックコース修了者は手話奉仕員の資格、アドバンスコース修了者は手話通訳者全国統一試験の受験資格を得ることができます。詳細について関心のある方は、Webサイトをご覧ください。

(2023年度の出願は受付を終了しました)



2022/4/1-12/31

NEWS

群馬大学最新ニュース



- 2022年4月～12月に群馬大学がリリースした一部のニュースを取り上げたものです。
- 他のニュースやニュースの詳細などは群馬大学ホームページ(トップ「大学からのお知らせ」)をご覧ください。

2022/4/1

群馬大学と日立製作所が「先端粒子線医科学共同研究講座(日立製作所)」を設置しました。

粒子線を中心に、放射線治療のさらなる効率化・高度化と普及をめざし、2024年3月までの2年間にわたり共同で研究を実施します。

2022/4/15

ウクライナの学生・研究者の受け入れ支援を開始

群馬大学は、ロシアによるウクライナへの武力侵攻により教育や研究の継続が難しくなったウクライナの学生や研究者を一時的に受け入れることとしました。2023年2月時点では4名の学生と、1名の研究員を受け入れています。



2022/4/21

未来先端研究機構の高稲正勝助教らの共同研究により、細胞内タンパク質が毒性のある異常な凝集体へ変化するのを高濃度のアデノシン三リン酸(ATP)が抑制していることを発見しました。

● 本研究の成果: 英国のオープンアクセスジャーナル eLife 誌に掲載されました。

<https://www.gunma-u.ac.jp/information/127008>

2022/4/25

共同教育学部の島孟留講師、未来先端研究機構の川端麗香講師らの研究グループは、健康なマウスに習慣的な軽い運動を行わせたところ、他のマウスの救助行動をみせるなど、他者理解を支える能力である「共感性」が伸長することを解明しました。

● 本研究の成果: 2022年4月19日に「Brain Research」オンライン版で公開されました。

<https://www.gunma-u.ac.jp/information/127339>



救助行動をみせるマウス

2022/5/6



図1 多孔質炭素を利用した腸管出血性大腸菌O157の無毒化

重度の食中毒を起こす腸管出血性大腸菌O157の無毒化に成功～腸管出血性大腸菌感染症の予防・治療法の発展に向けて～

大学院医学系研究科細菌学講座の平川秀忠准教授らの研究グループは、大学院医学系研究科生体防御学講座の神谷亘教授、鈴江一友講師と株式会社クレハとの共同研究により、腸管出血性大腸菌O157の無毒化に成功しました。本研究結果により、腸管出血性大腸菌O157による食中毒の予防や治療法の発展に繋がることが期待されます。

● 本研究の成果: 2022年5月6日に国際雑誌『Frontiers in Microbiology』にて発表されました。

<https://www.gunma-u.ac.jp/information/129879>

2022/5/11

群馬大学的女性技術職員が受賞「令和4年度科学技術分野の文部科学大臣表彰」

医学系研究科教育研究支援センター共同利用機器部門の平野瞳子技術専門職員が、令和4年度の科学技術分野の文部科学大臣表彰研究支援賞を受賞しました。本賞は、科学技術の発展や研究開発の成果創出に向けて専門的且つ技術的に研究開発の推進に寄与した者の功績を讃え、科学技術者の意欲及び科学技術水準の向上を目的として令和2年度に創設された表彰制度で、2022年4月20日に文部科学省内にて授賞式が行われました。



写真は5月に学内で行われた伝達式の様子

2022/5/20

未来先端研究機構の柴田淳史准教授及び内原脩貴博士研究員らの国際共同研究チームが、DNAが傷ついたときに起こる新しい免疫応答の仕組みを明らかにしました。

● 本研究の成果: Molecular Cell誌(Cell姉妹紙)に掲載されました。 <https://www.gunma-u.ac.jp/information/130538>

2022/5/27

Nature誌の姉妹誌であるScientific Reports誌に、超伝導への転移が2次相転移であることについての数学作用素論的な別証明を与えた大学院理工学府渡辺秀司教授による論文が掲載されました。

<https://www.st.gunma-u.ac.jp/nature-shironnbunnkeisai202205/>

2022/6/17

駐日ウクライナ大使セルギー・コルスンスキー氏による講演会を開催しました。

荒牧キャンパスのミュージックホールにセルギー・コルスンスキー駐日ウクライナ大使をお招きし、ウクライナという国、ウクライナの本来の姿と現状について、大使から直接貴重なお話を賜りました。ハイブリッドで開催された講演会には、会場に125名、オンラインで313名、合計438名の学生・教職員が参加し、学生から「ウクライナに対して日本の大学生が何ができるか」などと大使へ直接質問する場面もみられました。



講演するセルギー・コルスンスキー駐日ウクライナ大使

2022/7/13

生体調節研究所の井上亮太助教、白川純教授らの研究グループは、横浜市立大学、アルバータ大学(カナダ)、理化学研究所、ジョスリン糖尿病センター(米国)等との共同研究で、糖尿病の膵β細胞からのインスリン分泌が低下する新たな原因を解明しました。

●本研究の成果:2022年7月15日号のiScience誌(Cell press 社:米国)に掲載されました。

<https://www.gunma-u.ac.jp/information/136799>

2022/7/22

大学通信ONLINE発表の「2022年実就職率ランキング」において、群馬大学は国立大学では全国2位にランクインしました(私立大学を含めても全国トップ10入り(全国6位))! <https://www.gunma-u.ac.jp/information/139399>

2022/7/20-8/2

群馬大学オープンキャンパスGU' DAY2022を開催しました

群馬大学オープンキャンパスGU' DAY2022を2022年7月20日(水)~8月2日(火)にWeb開催し、過去最高となる4,907名の参加登録がありました。学部イベントの方はWebと来校型の開催(7・8月中に実施)とし、こちらも多くのイベントが早くから満席となるなど、大好評となりました。



来校型イベントに参加する高校生等



MAYU外周ツアー

2022/8/4

医学部附属病院整形外科の高澤英嗣助教と医学系研究科整形外科の筑田博隆教授らは、国立精神・神経医療研究センター(NCNP)脳病態統合イメージングセンター(IBIC) 阿部十也部長、京都大学 花川隆教授(NCNP特任部長)らとの共同研究により、健康な右利き成人の片手運動に関わる脳・脊髄伝導路の機能結合パターンの測定から、脳・脊髄間の機能結合様式が右手運動と左手運動で異なることを世界で初めて見出しました。

●本研究の成果:2022年7月5日に国際雑誌『Communications Biology』オンライン版にて掲載されました。

<https://www.gunma-u.ac.jp/information/137710>

2022/10/7

カーシェアステーション オープンセレモニーを開催

群馬大学と群馬トヨタは「大学生向けのカーシェア共同実証実験」として、荒牧キャンパス及び前橋市にある学生寮の「養心寮」で実証実験を行ってきましたが、2022年10月から桐生キャンパスにも拡大し、桐生キャンパス内の学生駐車場にカーシェアのステーションを設置しました。これを記念し、工学部同窓会記念館にてオープンセレモニーを開催しました。



工学部同窓会記念館でのオープンセレモニー

2022/10/14

大学院保健学研究科の嶋田淳子教授が率いる日本とエルサルバドルの共同研究チームの取り組みが、国際的な総合科学雑誌Natureオンライン版、特集企画Focal Point on Neglected Tropical Diseasesに、記事広告「Chagas collaboration aims to tackle 'kissing bug' disease」として掲載されました。

<https://www.gunma-u.ac.jp/information/142040>



2022/11/8



写真前列左から3人目が石岡群馬大学長

埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業に関する協定を締結

埼玉県及び群馬県内において将来の地域医療に貢献できる医療人を育成するため、「埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成」事業に関する協定を11月4日に締結しました(令和4年度文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業選定)。本事業は、埼玉県と群馬県の県境地域を中心とする医師不足の解消を図り、もって両県民の健康長寿に資することを目的としています。

荒牧祭(学園祭)とホームカミングデーを同日開催しました

2022年11月27日(日)荒牧キャンパスにて、荒牧祭とホームカミングデーを同日開催しました。

大学会館ミュージズホールでは、群馬県立歴史博物館特別館長の右島和夫氏(群馬大学教育学部出身)による講演会が開催され、群馬大学名誉教授であり、群馬の考古学の礎を築いた研究者として知られる尾崎喜左雄博士の研究を中心に、群馬県の古墳や古墳時代の特徴について語られました。

キャンパスツアーは学生広報大使のガイドにより、大学会館から情報学部、教育学部の建物、馬術部や次世代モビリティ社会実装研究センター(CRANTS)を回るコースで行われ、幅広い世代の方々が参加しました。荒牧祭では学生によるイベント、模擬店、群馬大学で受け入れているウクライナの学生による家庭料理の屋台の出店がありました。地域に根差し貢献する群馬大学の魅力を存分に味わえる荒牧祭、ホームカミングデーとなりました。



大賑わいの荒牧キャンパス内



当日は晴天に恵まれました。
キャンパスツアーのガイドをつとめるのは学生広報大使



次世代モビリティ社会実装研究センター(CRANTS)を見学する参加者



講演する右島特別館長



ウクライナ伝統料理「テルニー」屋台

✓このコーナーの取材を担当した学生広報大使



共同教育学部
教育専攻3年

和田山 愛鈴
(わだやま・あいり)



【アドミッションセンター】(ホームカミングデー内イベント)

大学説明会・個別進学相談会を開催しました

アドミッションセンターでは11月27日(日)に、ホームカミングデーの中のイベントとして、大学説明会と個別進学相談会を実施しました。114名の高校生・保護者の参加があり、参加者からは「コロナ禍で大学に来る機会が無かったため、今回直接話を聞くことができて良かった。」との感想がありました。たくさんのご参加ありがとうございました。



あなたの寄附が群馬大学の未来を創る

群馬大学基金へのご支援をお願い申し上げます。

群馬大学基金に寄附をいただいた主な企業・団体様(敬称略)

一般社団法人群馬大学工業会



群馬大学工業会 (理工学部同窓会)

有意義な学生生活後は社会と
家族に貢献を!

一般財団法人同愛会



群大生の皆さんの
修学活動を支援します。

一般社団法人パナック持株支援会

一般社団法人 パナック持株支援会

貴大学並びに学生の皆様の研究が
少しでも前進する一助になれば幸いです。

高崎北ロータリークラブ



ウクライナと若者たちの未来を応援します。

上武印刷株式会社



群馬大学生として
誇りを持って、
それぞれの場
で活躍ください。

システムセイコー株式会社



一流の技術を発揮し、社会に貢献しよう!

バンドー化学株式会社



今という時間(とき)を
大切に、
自分を磨き
続けてください。

王子製鉄株式会社



電気炉による平鋼製造を通じ、
社会インフラを支えています。
ぜひ一度見学へお越しください。

荻原産業有限会社

荻原産業有限会社

学生・研究者への支援を継続してください。

株式会社アイ・ディー・エー



笑顔で最新の技術をもって
社会に貢献しよう。

株式会社チノー



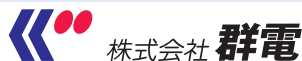
皆様のご活躍を応援しております。

株式会社ユタカ製作所



充実した学生生活を送れるよう応援しています。

株式会社群電



"共に通信と電気の未来を創造しましょう"
Creating the future of communication and
electricity together

群馬トヨペット株式会社



自分の目標に向かって頑張ってください!
我々は、そんなみなさんを応援し続けます!

群馬大学工業会横浜支部

群馬大学工業会横浜支部

世界に羽ばたく群大生を支部一同応援しています!

高崎セントラルロータリークラブ



当クラブでは、
青少年奉仕活動を通じて、
世界平和と異文化の理解に
寄与する人材の育成を
目指しております。

植木プラスチック株式会社



弊社は真空圧空成形の技術の蓄積により安定成長して
きました。この業界の日本一を目指し研究開発を続けて
います。将来を担う学生の皆さん!是非ものづくりの現
場を見学に来てください。

東京パーツ工業株式会社



当社は、車載関連部品の製造会社で
す。生産は、海外工場が主体となっ
ており、海外で働くことに興味のある方
も是非一度見学してみてください。

- あかぎ信用組合
- 株式会社日本キャンパック
- MICシステム
- 株式会社ヨシカワ
- 株式会社登利平

- 足利ガス株式会社
- 株式会社キンケン
- 有限会社柏屋
- 株式会社総合PR
- 株式会社野村建設工業

- 技研コンサル株式会社
- 菊地歯車株式会社
- 群馬大学消化器・肝臓内科
- 池下工業株式会社

匿名希望の企業・団体
3法人・団体

※2022年4月~2022年12月に寄附申込をいただいた
企業・団体様を掲載しております。

群馬大学基金Webサイト
ご寄附はWebからお申込みいただけます
クレジットカード・コンビニ・銀行振込 対応

群馬大学基金

<https://kikin.gunma-u.ac.jp/html/method.html>

検索



Photogallery

フォトギャラリー

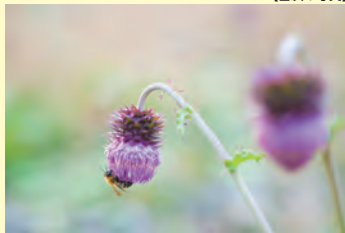
【表紙の写真】



撮影
学生広報大使兼
桐生写真部 大澤 郁弥さん

桐生写真部アカウント
Twitter: @gust_photo
Instagram: @gupt_kiryu.gallery

【目次の写真】



撮影
学生広報大使兼
荒牧写真部 綿屋 奎杜さん

荒牧写真部アカウント
Twitter: @GaPhotoclub
Instagram: @g.a.photoclub

Back number

バックナンバー

<https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out009/guday>



読者の皆様へ アンケートご協力をお願い

群馬大学広報誌「GU'DAY」をご覧いただきありがとうございます。よりよい広報誌作成のため、簡単なアンケートにご協力ください。アンケートは3分ほどで終わります。

群馬大学オリジナルグッズプレゼント!

アンケートにご協力いただき、プレゼントに応募された方の中から抽選で合計10名様に「群馬大学オリジナルグッズ」をプレゼント!是非ご応募ください!

プレゼント応募締切: 2023年5月31日

回答方法: QRコードを読み取って回答してください。

応募方法: アンケートの最後に必要事項を記入してください。



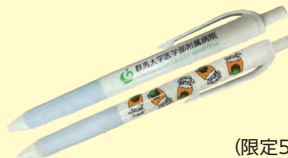
群馬大学オリジナル付箋
(色は選べません)



学生広報大使作成
オリジナルクリアファイル



群馬大学
オリジナルクリアファイル(星野富弘版)



(限定5名様)

群馬大学医学部附属病院
オリジナルボールペン(ぐんまちゃん柄)
「キャンパス紹介」&「研究紹介」関連グッズ!



群馬大学オリジナル
トートバッグ

編集後記 ～先人の志と受け継ぐ記念号～

150周年事業を控えた昨年、前橋市文京町にある群馬県立文書館で設立当時の文書を改めて確認してきました。記録によれば、本学のルーツである小学校教員伝習所は明治6年2月に前橋市に設立され、同年6月に、群馬県令を務めた河瀬秀治から「教員伝習小学校設立之儀二付伺」が第一大学区柳本少督学宛に出され、同年7月12日付けで「何之通」として、開校の許可が下りています。県令から国への伺は2度目で承認されたもので、この間に諸般の準備を進めています。明治政府の発足まもない激動の時代に、国の未来を担う人材の育成のために奔走した先人たちの思いが脈々と受け継がれ、2023年、群馬大学は150周年の節目を迎えます。「全学としての一体感」がコンセプトの周年事業を私たちも精一杯盛り上げ、次代の50年、100年につなげていきたいと思います。(広報O.M)



群馬大学 広報誌

GU'DAY [グッデイ]

発行元: 国立大学法人群馬大学広報本部

発行日: 2023年3月

TEL: 027-220-7010(7011)

Email: s-public@jimu.gunma-u.ac.jp

URL: <https://www.gunma-u.ac.jp/>